

横山 明子 [修了生]

JICA中国国際センター
岡山県国際協力推進員

タンザニアで仕事をした2年間の経験を研究に活かしたいという漠然とした思いで修士課程に入学をしました。修士課程に在籍した2年間、育児や仕事と修士課程の勉強が両立できたのは、先生の熱心な指導と、同じゼミの仲間の精神的な支えがあったからだと思います。海外の学術雑誌に論文を掲載してもらうこともできました。修士課程では、国際協力の実務では気づくことのできなかつたモノの見方や考え方を得ることができました。それらは、日本国内をベースとした国際協力の仕事をする上でも役に立っています。修了後も、先生方にアドバイスをいただいたり、修了生どうしで情報交換をさせてもらっています。



幸喜 仁 [修了生]

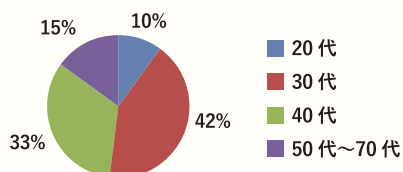
沖縄科学技術大学院大学 (OIST)

海外ボランティアに参加したことがきっかけで、気がつけば20年以上に亘り国際協力・開発援助の現場に身を置いてきました。これまで経験的に学んできた知識や手法等を整理・探求し、実践と理論を両立させたいとの思いから、国際社会開発研究科に進み、指導教官の昼夜を問わないメールによる論文指導や学友との議論を通じ2年半かけて修士課程を修了することができました。その後も開発途上国の現場に身を置いてきましたが、一念発起、昨年転職に成功し今度は地元のために活動することとなりました。修士課程を途中で棄権することなく完遂したことが前進のための原動力となっていることは言うまでもありません。通信制による社会人の再教育・訓練という場を提供して頂いたことに感謝し、これからも新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

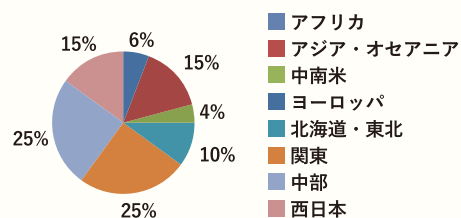


在籍者情報 (2017年4月現在)

年代割合



地域別割合



職業別割合

